NHK スペシャル
～立花 隆　最後の旅～より

立花さんは、「死ぬ間際」の人々が、科学的に説明できるか、世界中の「脳科学者」に執拗に話を聞いてまわりました。
立花さんの出した結論は、「死後の世界の存在を証明する科学的証拠はなく死んだら物質的には、無に帰る」ということでした。

「死の向こうに、死者の世界とか、霊界といったものはない。
死んだら全くゴミみたいなものとなる。
意識も全く残らない。」

これがひとつの唯物論的な考えで、微妙なところです。警戒する人もいるだろうし、そうでない人もいると思いますね。
立花さん「人間は不死ではなく、死すべき運命にあるということです。しかし、人は死すべき運命にあるということを自覚したとたん、その運命を乗り越えられることができるのではないかとも思いました。